

**本学と福島県郡山市逢瀬町の10年にわたる都市農村交流  
交流が紹介された広報紙が全国広報コンクールで“2席”に入選  
～ 応募総数 62 点の中から広報紙(市部)部門において選出 ～**

文京学院大学人間学部の学生と福島県郡山市逢瀬町との10年にわたる都市農村交流に関し、特集が組まれた郡山市広報紙『広報こおりやま』(2016年11月号)が、この度、公益社団法人日本広報協会主催「平成29年全国広報コンクール」の広報紙(市部)部門において、応募総数62点の中から、“入選2席(全国第3位相当)”に選出されました。

**全国広報コンクールと入選した『広報こおりやま』について**

「全国広報コンクール」は、地方自治体の広報活動向上の寄与を目的に、広報作品を対象としたコンクールを行い、優秀作品を顕彰する取り組みです。行政広報担当者のための全国組織・公益社団法人日本広報協会が1964年から実施しており、広報紙・ウェブサイト・広報写真・映像・広報企画の媒体・ジャンルごとに計10の部門が用意されています。コンクールでは、広報作品を市町村単位で募集し、各都道府県それぞれで審査・推薦が行われ、最終的に同協会の審査により特選や入選が決定します。

郡山市は住民に対し市政情報を広く発信するため、広報紙『広報こおりやま』を制作し、各戸への配付やウェブサイトでの掲載、そして昨年5月からは市内商業施設などで配布を行っています。目を引く表紙、写真を豊富にレイアウトしたビジュアル、丹念に取材された特集など、創刊以来、市民の皆さんから好評を博しています。そして特集記事「逢瀬町と埼玉・文京学院大学が紡ぐ、まごころのストーリー 10年のキセキ」の2016年11月号が、この度、広報紙(市部)部門において、“2席”に入選しました。10ページにわたる本学と郡山市の10年間の交流を特集した記事では、2006年～2010年を「初めての出会い」、2011年を「転機」、2012年～2016年を「新たなつながり」、FUTUREとして「広がるまちづくり」の4部で構成し、関係者のインタビューをはじめ、多くの写真やコラムが掲載されており、展開の良さも評価されました。



**文京学院大学と郡山市について**

本学と郡山市の関係は、人間学部の中山智晴教授が教鞭を執る環境問題研究ゼミナールが、2006年2月、グリーンツーリズムの先進地として同市逢瀬町を訪れたところから始まります。同ゼミは、環境問題をテーマに「持続可能な循環型社会」の実現を目的とした、農業や食、自然などを対象に研究を行っています。そこで、高齢化や後継者不足が課題の郡山市の農業を、都市農村交流を通じ地域の伝統文化や自然環境という特性を活かして、グリーンツーリズムの開催や、農産物代行販売、文京ワイン作りなどのプロジェクトを立ち上げ、創造性豊かな地域づくりをサポートしてきました。

本学では全学部でフィールドワークを展開しており、このようなフィールドワークの取り組みの1つである郡山市との交流が今後も本学学生の教育に良い影響を与え、地域創成の一助となることを期待しています。これからも地域に貢献できる教育展開を広く行っていく予定です。

**< 文京学院大学について >**

1924年、創立者島田依史子が島田裁縫伝習所を文京区に開設。教育理念「自立と共生」を根源とする先進的な教育環境を整備し、現在は、東京都文京区、埼玉県ふじみ野市にキャンパスを置いています。外国語学部、経営学部、人間学部、保健医療技術学部、大学院に約5,000人の学生が在籍する総合大学です。学問に加え、留学や資格取得、インターンシップなど学生の社会人基礎力を高める多彩な教育を地域と連携しながら実践しています。